



ベナン共和国 (Republic of Benin)



- ベナンへの援助総額は2014年までに累計約509億円。
- 二国間関係は良好。2002年駐日大使館、2010年在ベナン日本国大使館を開設。
- 日本のベナン共和国に対する経済協力は、1980年代に始まって以来、農業・水産、教育、医療・衛生等の幅広い分野にわたる。

国概要

(基礎データ)

- ・ 面積: 112,622平方キロメートル(日本の約3分の1)
- ・ 人口: 1,090万人(2015年, 世銀)
- ・ 首都: ポルトノボ(首都圏人口約166万人)
- ・ 民族: フォン, ヨルバ, アジャ, バリタ, ブル, ソンバ等40余り
- ・ 言語: 公用語はフランス語, 現地語は各民族語
- ・ 宗教: 伝統的宗教(65%), キリスト教(20%), イスラム教(15%)
- ・ 政体: 共和制
- ・ 議会: 国民議会(83議席, 任期4年)
- ・ GDP: 84.76億ドル(2015年, 世銀)
- ・ GNI: 一人あたり 860ドル(2015年, 世銀)
- ・ 経済成長率: 5.23%(2015年, 世銀)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

18世紀	ダホメ王国の繁栄
1892年	仏保護領化(1946年仏海外領土化)
1960年	ダホメ共和国としてフランスから独立
1963-1972年	5度の軍事クーデターが発生, 5度目にマチウ・ケレク司令官が大統領に就任
1975年	ベナン人民共和国に国名変更
1979年	民政移管の実現
1989年	マルクス・レーニン主義を放棄
1990年-	国名をベナン共和国に変更, 民主的な大統領・国民議会選挙を経て, ソグロ, ケレク, ヤイ各大統領が順に政権を担った
2016年	選挙により政権交代, タロン大統領就任

援助実績

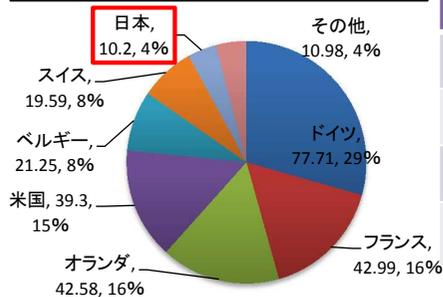
スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	37.62億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	396.78億円 (2014年度末時点)
技術協力	74.68億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ250人 (2016年7月時点で37人)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注)青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からベナンへの輸出	11億1,200万円 (2015年, 財務省統計)
ベナンから日本への輸出	1億2,400万円 (2015年, 財務省統計)
在ベナン日系企業数	1社 (2015年10月時点, 外務省統計)

ベナンへの主要ODA供与国 (2014年, 出典: OECD/DAC, 単位: 百万ドル)



人的つながり

項目	人数(直近年)
ベナンにおける在留邦人数	91人 (2016年2月時点, 外務省統計)
在日ベナン人数	63人 (2015年末, 法務省統計)
ベナンから日本への留学生数	21名 (2015年, (独)JASSO調査)
ベナンからの研修員受入人数(JICA)	延べ約1,073人 (1972-2013年, JICA)

日本とベナン共和国との協力年表

年代	案件
1962年	貿易取極締結
1984年-	地下水開発計画
1996年	円借款取極締結
1995年	コトヌ市雨水排水施設整備計画
1997年-	小学校建設計画
2002年	駐日ベナン大使館開設
2003年	青年海外協力隊派遣取極締結
2005年	コトヌ零細漁業開発計画
2007年	ラギューン母子病院整備計画
2010年	在ベナン日本国大使館開設
2010年	内水面養殖普及プロジェクト開始
2011年	ジョグー初等教員養成機関能力強化計画着工
2015年	アトランティック県アラダ病院建設・整備計画着工
2016年	ベナン柔道連盟と共催で柔道日本大使杯を開催
2016年8月	安倍総理とタロン大統領がTICAD VIの機会に懇談

従来より継続して、給水設備整備を支援。2009年には、第六次村落給水計画を実施。34の小規模給水施設、780のポンプ式井戸の建設、377のポンプ式井戸の修繕を実施。安全な水の確保を可能とし、安全な水の利用により、ギニアワーム等の水因性疾患の症例数の減少に寄与。



従来より教育分野を継続支援し、2012年には、第五次小学校建設計画を実施。累計800以上の教室を建設。2006年からの無償化政策により児童が増加し、教員資格を持つ教員が不足。初等教育修了率も低下。初等教員養成校整備を通して、質の高い教育を受けた正規教員の輩出にも寄与。

建設した漁港で、水揚げした魚を販売する様子。入場料を払えば誰でも魚を買うことができるが、大半は仲買人の女性達が買い付け。魚を新鮮に保つための氷も場内で生産。



人口増加に伴って、水産物需要が増大。海面漁業資源には限界。そこで内水面養殖によるタンパク源確保を目指す。ナマズとティラピアを養殖する農家は稚魚を育て他の養殖農家に販売。プロジェクト者から助言を受ける、養殖する農家

選手170名、観客500名を超える人々が参加。柔道以外にも合気道及び剣道のデモンストレーションなど、伝統武道を通じた日本文化を紹介。

ラギューン母子病院病棟、待合室の様子。以前は床などで雑然とした中待っていた。

